

島根県のHIV診療の現状



出雲大社

島根大学医学部附属病院
輸血部
井上 政弥

本日の内容

- 島根県の医療とHIV診療体制について
- 県内のHIV検査の体制と実績について
- 島根大学医学部附属病院におけるHIV診療について

本日の内容

- 島根県の医療とHIV診療体制について
- 県内のHIV検査の体制と実績について
- 島根大学医学部附属病院におけるHIV診療について

東西に細長く延長は約230kmに及び、島根半島の北東約40～80kmの海上には隠岐諸島が点在するなど、気候、風土が異なる多様な地域からなっています。

また、公共交通機関の発達が十分でないため、移動のほとんどを自動車に頼っています。しかし、県内高速道路の整備は、山陽側や全国と比べて大幅に遅れています。

総人口は 671,602人で、全国 46 位

65 歳以上人口（老年人口）が 30.0%

75 歳以上人口（後期高齢者人口）が 17.3%
〔後期高齢者人口割合は全国 1 位〕



島根県の二次医療圏

7つの二次医療圏

県西部及び中山間地域や離島の深刻な医師不足

深刻な医師不足
(地域偏在及び診療科偏在)
開業医の高齢化・後継者不足



従来にも増して大きな、かつ緊急に対応が求められる課題

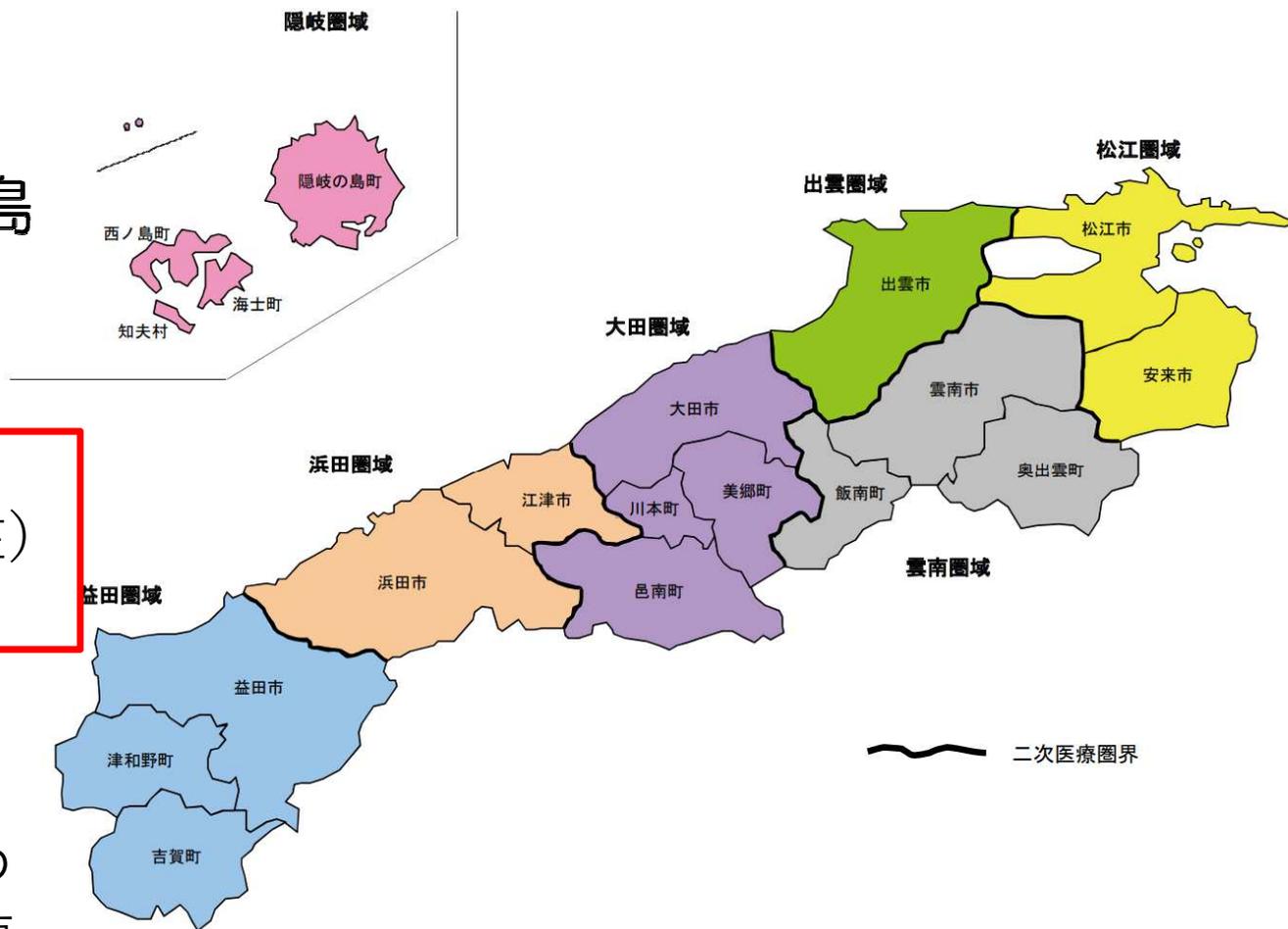


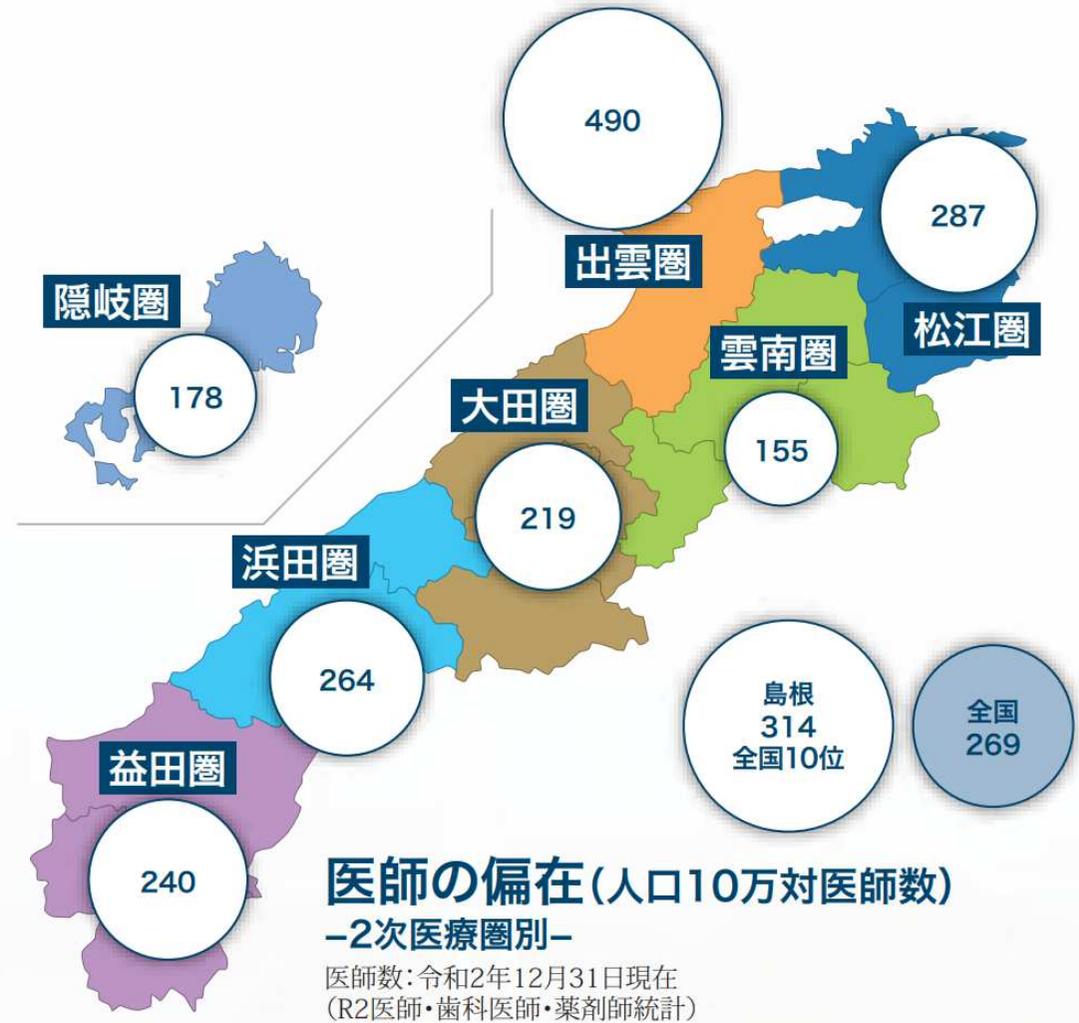
表1-2-1(1) 二次医療圏域別医師数（総数）

（単位：人）

人数	年次 (年)	全国	島根県	二次医療圏						
				松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐
実数	平成18(2006)	277,927	1,939	627	90	739	116	178	151	38
	平成20(2008)	286,699	1,911	609	82	743	113	189	141	34
	平成22(2010)	295,049	1,900	599	73	746	104	200	143	35
	平成24(2012)	303,268	1,946	614	79	775	101	201	143	33
	平成26(2014)	311,205	1,947	647	76	776	101	187	125	35
	平成28(2016)	319,480	1,975	644	80	804	101	175	139	32
人口 10万対	平成18(2006)	217.5	263.1	247.1	137.6	425.4	184.5	198.5	221.1	163.8
	平成20(2008)	224.5	263.6	241.8	129.0	428.9	185.6	216.8	212.9	152.6
	平成22(2010)	230.4	264.8	239.2	117.9	435.0	175.7	228.8	219.2	161.4
	平成24(2012)	237.8	275.2	247.1	131.8	454.2	175.9	234.1	224.3	157.4
	平成26(2014)	244.9	279.3	262.7	130.9	455.3	181.9	223.3	200.1	170.8
	平成28(2016)	251.7	286.2	263.0	142.2	467.0	187.9	214.7	228.3	156.9

資料：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）。ただし、県内各二次医療圏域の人口は各年10月1日現在の島根県の推計人口（県統計調査課）を用いて算出しています。

- ◆ 人口10万人に対する医師数は、全国平均を上回っている
- ◆ 地域偏在あり
 - ◆ 出雲圏、松江圏では上回っているが、それ以外では全国を下回っている
- ◆ 以前より改善傾向



島根県の医療体制について

- 高い高齢化率
 - 全国3位（33.1%）
- 人口が少ない（全国46位） 上に、面積が広い（全国19位）
 - 人口密度が低い（全国44位）
- 医療資源の偏在
 - 北東部と南西部の医療格差

島根県HIV診療体制

エイズ中核拠点病院

A) 島根大学医学部附属病院

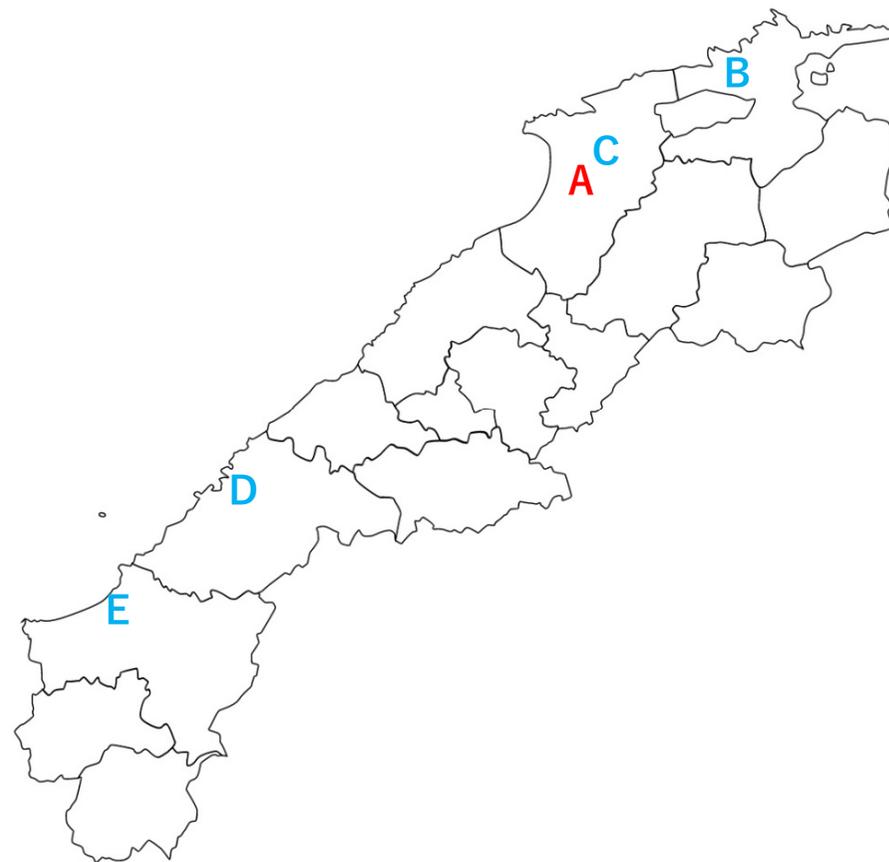
エイズ拠点病院

B) 松江赤十字病院

C) 島根県立中央病院

D) 国立病院機構浜田医療センター

E) 益田赤十字病院



島根県HIV診療体制

エイズ拠点病院

	定期通院患者数
島根大学医学部附属病院	10～99名
松江赤十字病院	10～99名
島根県立中央病院	0～9名
浜田医療センター	0～9名
益田赤十字病院	0～9名

エイズ対策協力医療機関

- 国立病院機構松江医療センター
- 松江市立病院
- 松江生協病院
- 玉造病院
- 雲南市立病院
- 出雲市立総合医療センター
- 大田市立病院
- 済生会江津総合病院
- 隠岐広域連合立隠岐病院

実際に、HIV診療が普通行われている医療機関は少ない
特に県西部では、極端に少ない

アンケート結果から

- 2022年6月 県内のエイズ拠点病院・エイズ対策医療機関へHIV感染症の診療状況についてアンケートを行った（回収途中）
 - 多くの医療機関が、HIV感染者の診療をしたことがないか、数名までであった。
 - 診療にも困難を感じると回答された医療機関が多く、その理由として、「対応できる診療科がない」「HIV診療の知識がない」と回答
 - 総合診療科などの感染症のトレーニングを受けた医師は受け入れに対して可能であると回答されている。

島根県のHIV診療体制について

- 体制としては整えられているが、診療実績がない、あるいは極めて少ない病院が多い
 - 島根県のHIV感染者数が少ないことや、患者さんが病状が安定しても医療機関を変更することを希望されないため
- 今後、安定した患者さんの診療や、初診の患者さんの初期対応は起こりうるため、その準備は必要
 - 治療について情報を共有する必要性
 - 研修会の実施など
 - 島根県エイズ拠点病院等連絡調整会議などで情報を共有

本日の内容

- 島根県の医療とHIV診療体制について
- 県内のHIV検査の体制と実績について
- 島根大学医学部附属病院におけるHIV診療について

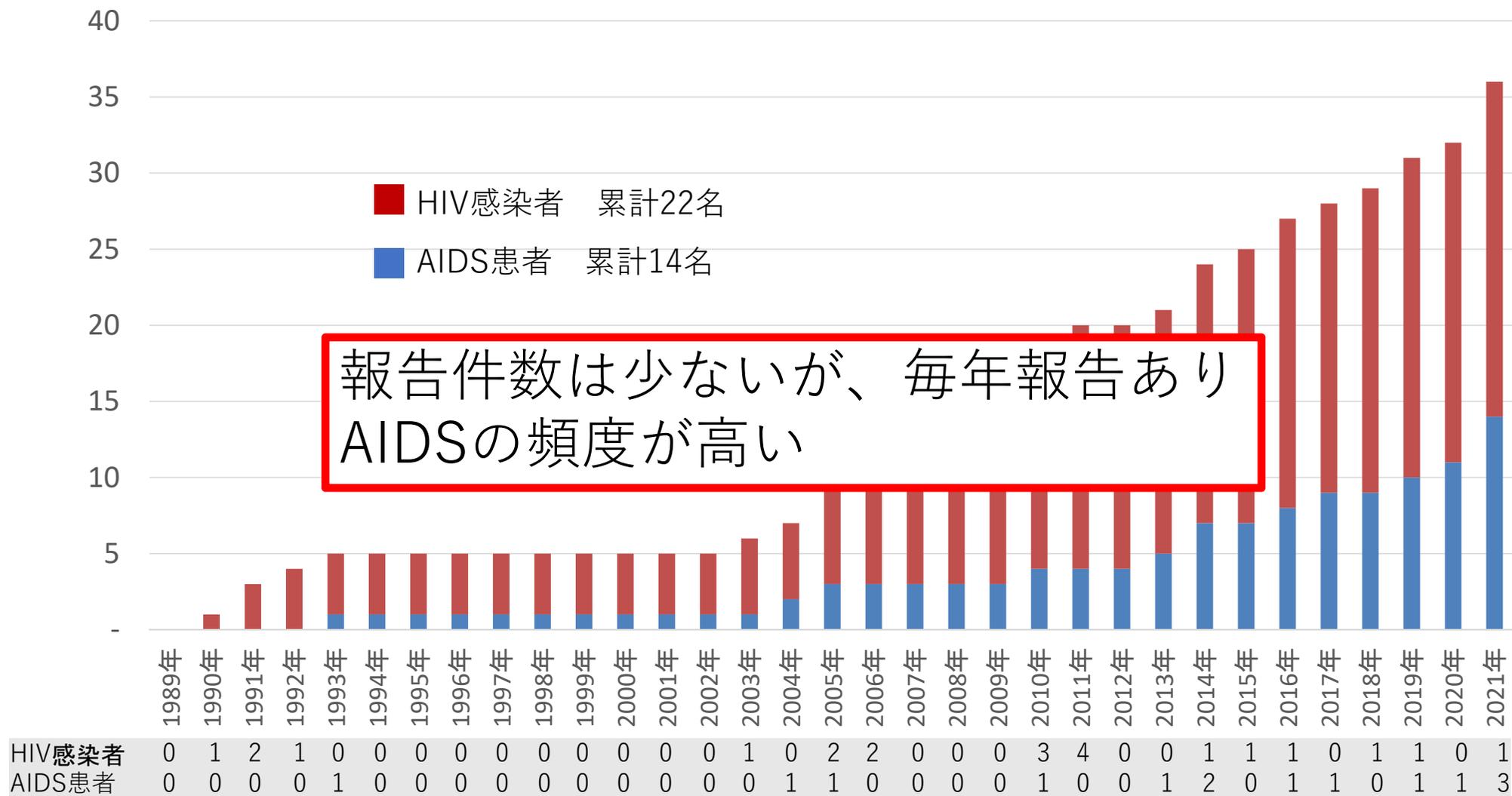
各保健所の検査日時、連絡先、検査方法（令和3年10月現在）

保健所名	定例の検査日時	検査方法
松江保健所	毎月第2火曜日：9:00-11:00 毎月第4木曜日：9:00-11:00	即日検査
雲南保健所	毎月第1・3火曜日（平日のみ）：9:00-11:00	即日検査
出雲保健所	毎月第3月曜日：9:00-11:00	即日検査
県央保健所	毎月第1・3火曜日：9:30-11:00	即日検査
浜田保健所	毎月第2・4火曜日：13:00-15:00	即日検査
益田保健所	毎月第1・3火曜日：9:30-11:00	即日検査
隠岐保健所	随時電話で相談及び検査予約	即日検査

島根県の保健所等におけるH I V抗体検査件数



島根県のHIV/AIDSの累計報告数



本日の内容

- 島根県の医療とHIV診療体制について
- 県内のHIV検査の体制と実績について
- 島根大学医学部附属病院におけるHIV診療について

島根大学医学部附属病院の概要

病床数 600床

平均在院日数 12.0日

1日平均入院患者数 516.3人

1日平均外来患者数 1259.0人

地域医療と先進医療が調和する大学病院

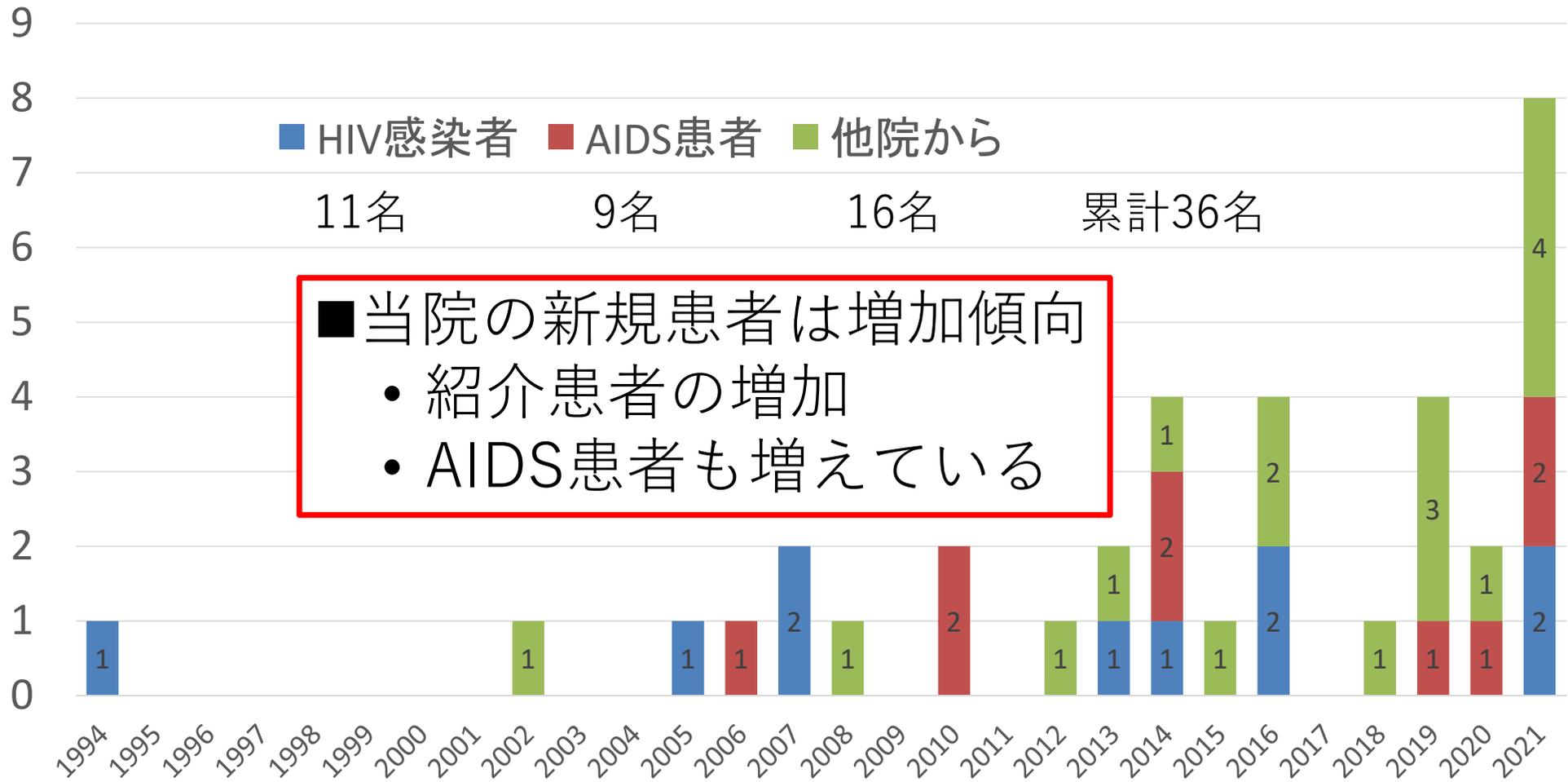


当院エイズ医療チームの構成

医師	1名
薬剤師	2名
看護師	4名
医療ソーシャルワーカー (MSW)	2名
カウンセラー	1名 (週1回の派遣)

いずれも兼務

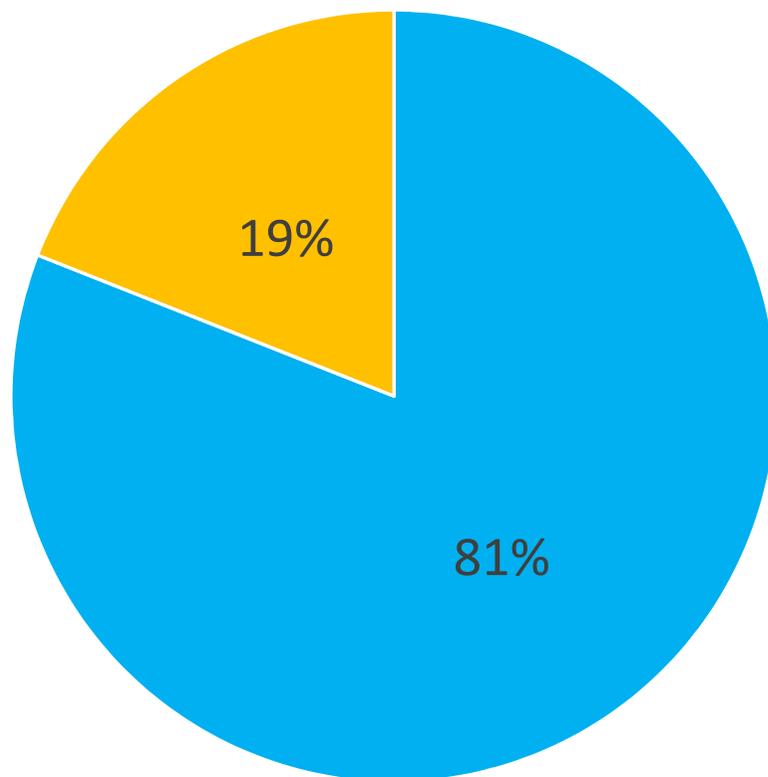
当院新規患者数の推移



当院通院患者数の推移



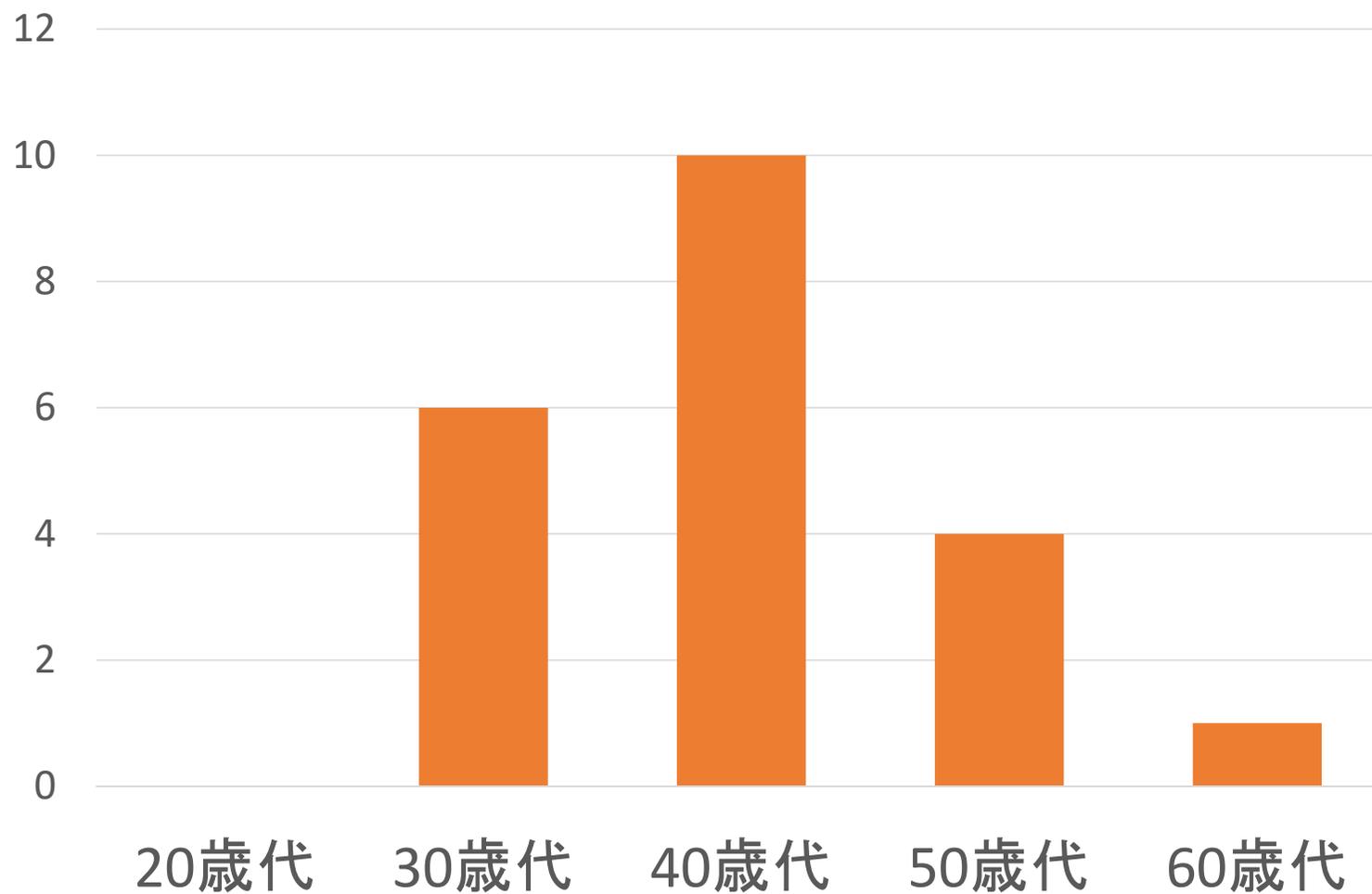
当院通院患者：性別



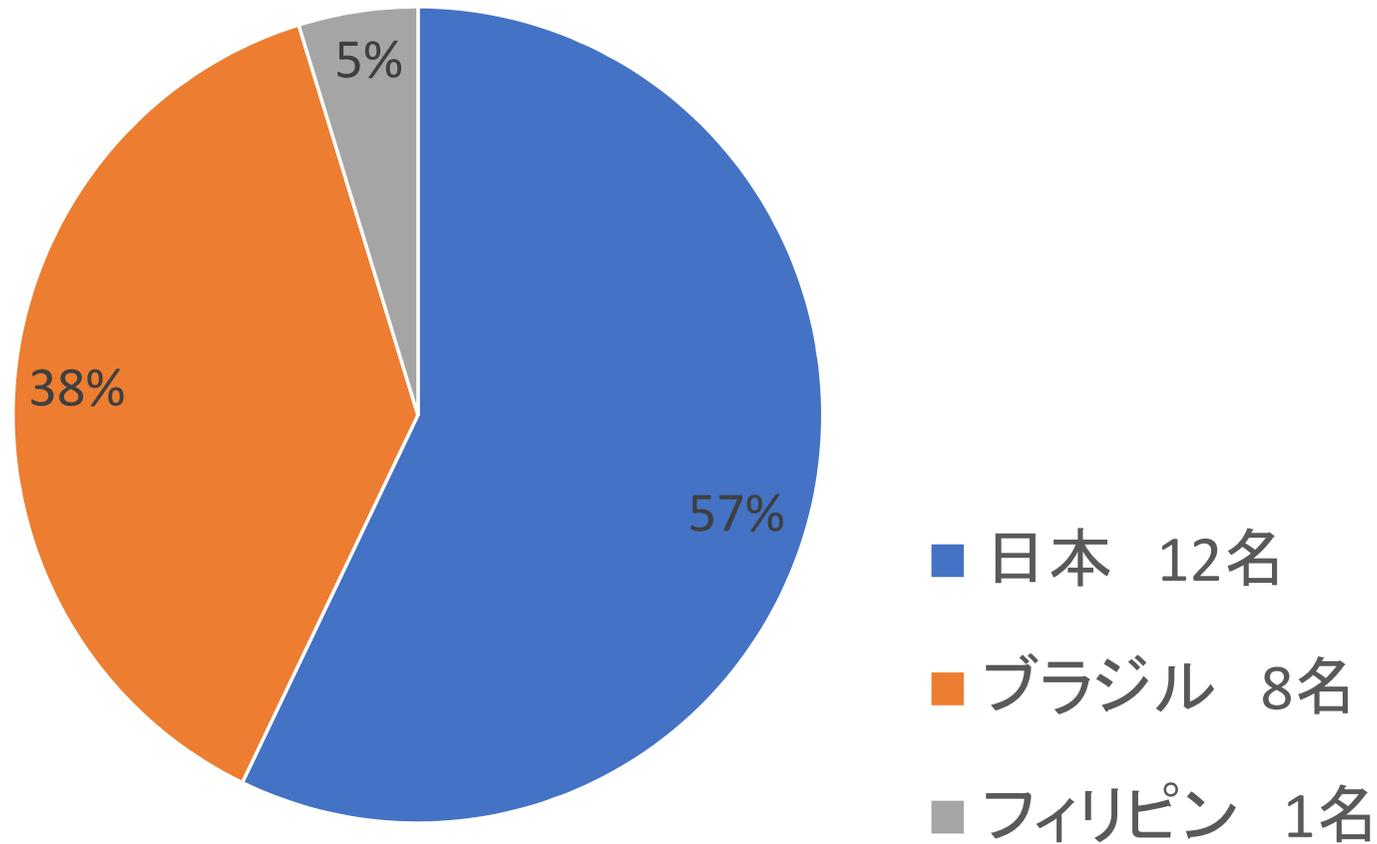
■ 男性 17名

■ 女性 4名

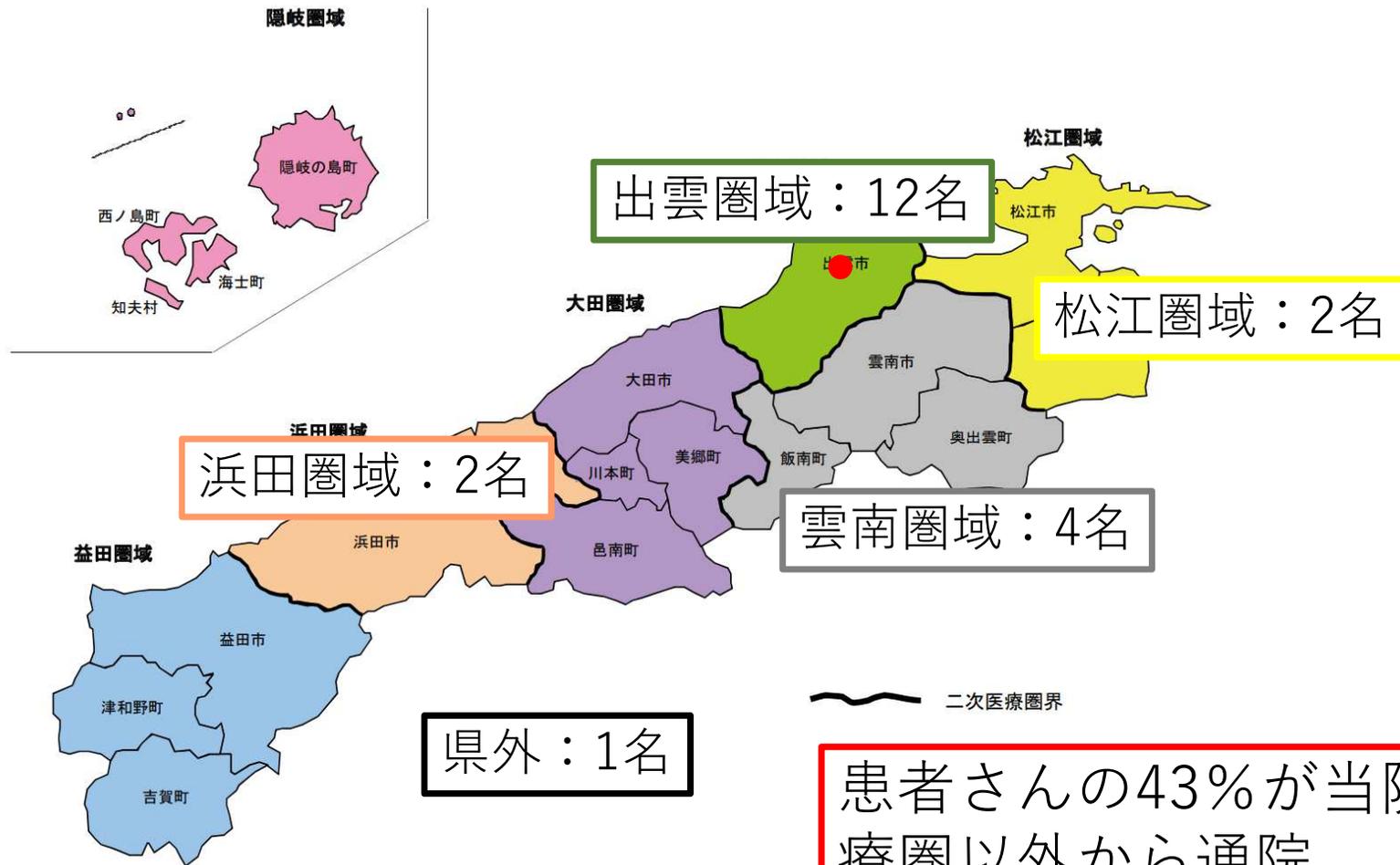
当院通院患者 : 年齢



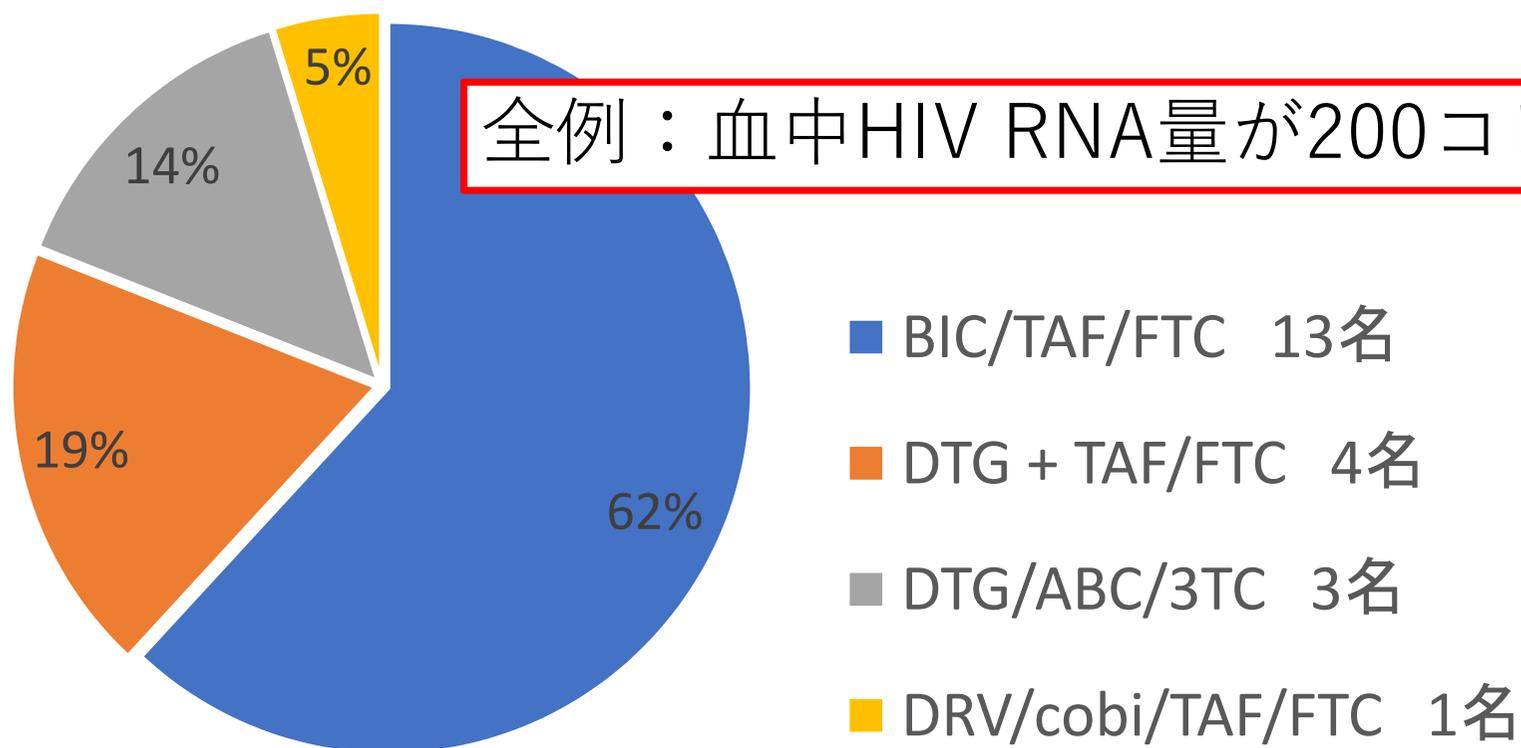
当院の通院患者 : 国籍



当院の通院患者 : 居住地域



当院の通院患者 : 抗HIV治療



当院通院中の患者さんの特徴

- 通院患者数がすくない（増加傾向だが）
- AIDS発症で診断された患者さんが多い
- 外国人（ブラジル人）の割合が高い
- 当院の二次医療圏以外からの通院の患者さんが多い
- 若年の患者が少ない（高齢化）

当院のHIV患者数について

- おそらくエイズ中核拠点病院のうち、診療実績が最も少ない医療機関の一つ
- 患者数が少ないため、新規患者が発生する度に、各診療科との連携などで問題が生じやすい
 - 当院のそれぞれの診療科が協力的であるため、対応できている
 - 最近では、AIDS患者の受け入れも多く、他科との連携がますます重要になっている
- 患者数が少ないがために、当院以外での通院の体制が作りにくい

当院のAIDS患者の割合について

- 「いきなりエイズ」の患者さんの割合が増加している
 - 当院の患者さんも、また島根県の発症報告でも増加している

患者さんは、

自身がAIDSを発症するなんてまるで思っていなかった

(HIV感染症のことが頭にない)

感染経路についても、分からない

- ◆普及啓発活動の重要性
- ◆AIDS発症患者の受け入れ体制の充実

当院のHIV陽性外国人患者の受け入れについて

- 「周囲に知られたくない」、「HIV感染症のことで多くの人に
関わりたくない」という冠状をもっている方が多い
- 言葉の問題
 - 会社で契約した通訳を利用している患者さんはまれ
 - 日本語の話せる信頼している人などを介してコミュニケーション
 - 医療者側が、伝えたい内容が正しく伝わっているか分からない
 - 情報の伝達に伴う医療トラブルの可能性
- HIV感染症であるが故に、他の疾患で受診される患者さんと異
なり、診療上難しいところがある

当院のHIV患者の高齢化について

- 現状で、通院が早期に困難になるような患者さんはいない
- 遠方からの通院患者さんも多いため、今後地域で診療する体制を準備する必要がある
 - 患者さんには、地元の病院を嫌がられる方も多い
 - 地域の病院でHIV診療の経験がある病院が少ない
- HIV感染症は慢性疾患であると言われるようになっており、安定している患者さんがじもとで診療を受けることができる体制作りを考える必要がある

最後に

- 島根県のHIV診療体制について、また島根県エイズ中核拠点病院である当院の診療状況について報告しました

島根県のHIV診療について、今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

ご清聴ありがとうございました